

# 令和5年度 伊那市立西春近南小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

| 学校教育目標                       | 重点目標(中長期的目標)   |
|------------------------------|--|
| 『恕』の心をもって<br>自己の生き方を拓く子どもの育成 | <p>十人十色<br/>安全で、安心できる学校</p>                                    |
|                              | 今年度の重点目標   |
|                              | <p>(1) 学び合って高めよう</p> <p>(2) ちがいを認め、思いやろう</p> <p>(3) 地域を学ぼう</p> |

| 総合評価  |        |  |
|---|--------|--|
| <p>○学習や生活、対人面、諸行事において、個に応じた適切な指導と必要な支援を行うよう全職員で努めた。『恕』の心をもって自己の生き方を拓く子どもの育成』を学校教育目標として位置づけて取り組んできた。特に今年度は「対話」に重点をおいた授業研究、児童理解に基づいた個別対応や学級指導により、素直な心や自尊感情の育ちが見られる。</p> <p>○学校アンケートでの質問「学校へ行くのが楽しい」「思いやりの心もち協力・仲良くしている」の結果は、いずれも児童・保護者共に約90%以上が「十分」「概ね十分」と答えており、児童が安心できる学校づくりが進んでいる。今後も、低評価の児童・保護者への支援や細部の見直し・働きかけに取り組みしていく必要がある。</p> <p>○地域の方や保護者の温かいお支えにより、地域の中での活動が充実した。殊に今年度は西春近南保育園との子どもを中心にした連携・協働体制への一歩を進めることができた。</p> |        |  |
| 成果と課題   | 評価     | 改善策・向上策  |
| (1) 本年度も「対話」を研究の柱にして授業改善や指導の向上を図り、自分の思いや考えを気軽に伝え合う姿が増えた。更に、考えを持てたり、伝え合う内容を深めたりできる支援を考えていきたい。また、あいさつについては自ら積極的にできるように、「伝え合う」基礎として力を入れる必要がある。   | B<br>b | ○自分の考えを持てる効果的な課題把握や対話場面の保障、ICTを活用した表現の機会づくりやそれにより互いに思考を深められる活動展開の工夫をしていく必要がある。<br>○あいさつは、学校全体で月生活目標に取り上げ向上を図り、個々に評価し、対人関係力や様々な事象への積極的姿勢づくりへとつなげていく。  |
| (2) 日常授業や諸生活、行事等で、一人一人の活動の良さががんばりを様々な形で認め合うことができた。異年齢による活動や人権週間(5月)・月間(11月)の学習でも多様な価値に触れる機会を設けてきている。特別に支援が必要な児童についての理解や接し方、支援について、今後も大事に考えていきたい。  | A<br>a | ○学級生活、児童会活動、縦割り班活動、地域活動等の中で、個々の考えや立場の違いを認識できる場を設定し、自分事として関わらせ、評価していく。<br>○特別支援学級の児童だけではなく、通常学級内で学習面や情緒面等で特に配慮が必要な児童本人やその周りの児童への支援指導を細かに検討する機会を取っていく。 |
| (3) 交流作業やふくじゅ園、保育園、北小等への訪問が実施でき、地域の方や施設との触れ合いができた。学校アンケートでは、児童約90%、保護者は約80%が「十分」「概ね十分」の評価をしているが、更にその内容も充実させていきたい。   | B<br>b | ○(1)「学び合って高める」(2)「ちがいを認める」「思いやる」ひとつの大きな場として、あいさつや交流、体験学習等を行える機会を地域の声も取り入れながら、計画的にできる限り多く設定し、更にその良さを実感・紹介できるようにしていく。                                  |

| 領域   | 対象   | 評価項目                                | 評価の観点   |  |
|------|------|-------------------------------------|---|--|
| 教育活動 | 教育課程 | ○チャレンジタイム・全校読書・子どもと向き合う時間などの教育課程の工夫 | ○チャレンジタイム・全校読書・子どもと向き合う時間など教育課程の工夫を生かし、子どもの個性や能力を伸ばしたり子どもとの関わりを深めたりすることができたか。 |  |
|      |      | ○児童の実態・意欲を考慮した教育課程の展開               | ○学校生活で、『恕』思いやりの心を育てたり、本物に触れ心を豊かにしたり、体力を向上したりする教育課程を展開することができたか。               |  |
|      | 学習指導 | ○指導要領に則した年間指導時数の確保                  | ○指導要領に照らし合わせ各教科等の年間指導時数を確保し、指導時間の過不足がないように計画的に指導できたか。                         |  |
|      |      | ○基本的な学力向上のための授業改善                   | ○1時間の主眼を明確にすることで、本時「つける力」を意識した授業づくりを行うとともに、まとめ(一般化)・みとどけのある授業を展開することができたか。    |  |
|      |      | ○伝え合う力の育成                           | ○学習問題(学習課題)・まとめのカードを用いた板書に心がけ、授業の流れにめりはりのある場面を位置づけることができたか。                   |  |
|      | 生徒指導 | ○児童理解に基づいた指導                        | ○児童の気持ち・心情に寄り添った対応を心がけることができたか。<br>○学校内をはじめ、家庭との連携が密にされているか。                  |  |
|      |      | ○学校目標に基づいた適応指導や人権感覚の育成              | ○学校生活全般から児童たちと共に考える適応指導ができたか。<br>○「いのち」や「心」の醸成をはじめ、あいさつやマナーの意識向上を図る指導ができたか。   |  |
|      | 学校   | 安全                                  | ○安全の確保  | ○具体的な場面(火災・地震・交通・廊下歩行・遊び)を想定して、安全指導を適時行うことができたか。 |

| 成果と課題   | 評価     | 改善策・向上策   |
|---|--------|---|
| ○朝読書は定着している。毎学期位置づけられている「子どもと向き合う日」では、児童一人ひとりと担任が個別に面談し、相談を受けたり支援をしたりしてきた。新設のチャレンジタイムについては、成果が見えづらく、推進のあり方を工夫する必要がある。 | B<br>b | ○「子どもと向き合う日」はアンケートも活用し、内容を充実させ、さらに職員間で情報を共有し、児童の心身の様子等について連携して理解して支援に努めていく。<br>○チャレンジタイムは、児童の主体性を育みながら、内容(基礎基本や探求)・進め方・評価について職員で情報共有しながら充実を図っていく。           |
| ○縦割り班の諸活動や南風っ子まつりなどを通して、異年齢の児童との関わりを多く取ることができた。児童が中心的に企画し、上級生が下級生への意識を持ちながら主体的に進める姿が見られた。更に心豊かにできる体験を大事にしていきたい。       | B<br>b | ○児童会や全校での参集の活動を、児童が主体的・対話的に活動・体験を進め、相互評価を含めて取組の価値づけをしていく。<br>○アンネのバラ、ユカイナなど本校ならではの体験活動を通して『恕』の心を育み、自分の生き方について学ぶ機会を、学習の中に継続的に位置づけていく。                        |
| ○感染拡大防止のため閉鎖の措置を取った学年もあったが、登校日数・指導時数を確保できている。学習内容が多い高学年では、教科指導時数のゆとりに欠ける傾向にある。また、学習の定着が十分でない児童には個別に学習支援を行った。          | A<br>a | ○教材研究を充実させることで、児童の実態に合わせた時数配分を工夫するとともに、より個に応じた指導計画を練り授業を行っていく。支援員の配置も継続させたい。<br>○行事に関わる活動時間を検討するとともに、生活科や総合的な学習についても、「つける力」を明確にして年度当初から見直しをもちながら進めていくようにする。 |
| ○主に教科研究会を通して、教材研究を基にした「つける力」の明確化や追究過程の工夫を図ってきた。更に、個々の児童の実態を把握し、個別最適な学びへの支援について、日常的な意見交換の場(職員の対話)づくりをしていく必要がある。        | B<br>b | ○「主体的、対話的で深い学び」を視点とする授業改善を継続する。本年度力を入れてきた「対話」活動や授業のふり返りを次の時間に活かせる評価の研究をしていきたい。<br>○お互いに授業を見合ったり、放課後、短時間でも時間を生みだし日々の授業の悩みや方策を語り合ったりする機会を大事にしていきたい。           |
| ○上伊那幼児教育研究会の研究発表校として、全職員で園小の学びの継続について授業を通じて研究した。特に「思考の芽生え」「対話」に重点を置いて取組を進めてきた。「南小スタンダード」(学びのスタイル)の活用について見直していきたい。     | B<br>b | ○「南小スタンダード」の見直し(児童や教師の願いや現在の姿を確認する)を図り、日々の学習・指導に活かせる仕組み(スタンダードへの取り組みを定期的に振り返る時間を確保して、年間等して活用、見直しを進める)を考えていく。<br>○ICT用カ/ソも含めた板書の仕方について視点をあてた授業改善に取り組む。       |
| ○児童の「対話」によって一人一人の活動が進んだり、考えが深まったりすることがわかってきた。今後も、伝え合う力を引き出す・伸ばすための研究をしていきたい。また、ICT機器(Pad)を持ち帰り、日常や自宅待機時に活用することができた。   | B<br>b | ○ペア学習やグループ学習など積極的に取り入れ、児童間のコミュニケーションを活発にし、お互いの思いや考えを伝え合える授業・その評価を工夫していく。<br>○伝え合う力、発信する力をつけていくために、ICT機器を有効的に活用(共同閲覧機能、共同編集機能、プレゼン機能等)した授業を更に推進していく。         |
| ○担任はもとより全職員で、児童と関わり合いをもつことを大事にし、日常的に話題にしてきた。児童の様子や気になる姿については、職員会議や学年会、支援会議を通して、継続的に職員全体で共通理解し児童への支援につなげてきている。         | A<br>a | ○今後も家庭との連絡体制を密にし、信頼関係を築いていきたい。また、丁寧で素早い対応・支援をめざして、校内全職員が情報をできるだけ早く詳しく共有し、検討・実行できる校内支援体制を整えていく。  |
| ○子どもの状況を把握し、「恕」の心について、朝の会や帰りの会、学級の時間で学年の発達段階に応じて具体的に指導してきている。また、いじめに関わる事象に関しては、気になったことをすぐに報告し合って対応し、その後の様子についても留意した。  | B<br>b | ○場に応じた挨拶やマナーについては、その意義や方法などについて考えさせながら指導していく。また、言葉遣いや接するときの態度など、学校職員・家庭・地域の意識を高めるとともに、SOSの出し方に関する指導も引き続き行っていく。  |
| ○避難訓練や引き渡し訓練、年6回の集団下校訓練で、児童は真剣に参加でき、防災・安全に対する意識・行動力を高めることができた。職員研修は、事前・本番と2度の不審者対応訓練を行うことができた。家庭や地域と連携をとりながら備える必要がある。 | A<br>a | ○安全安心の学校をめざして、家庭・地域に向けて、更に学校から呼びかけていく。また、日常のヒヤリハット事例の研修やアレルギー、けが等の緊急対応訓練の機会を増やすなどして、職員の危機管理意識を高めていく。  |

|        |                |                                     |  |  |        |  |
|--------|----------------|-------------------------------------|--|--|--------|--|
| 運<br>営 | 地域<br>との<br>連携 | ○地域の素材・人材の活用                        | ○地域の素材を生かした教材化や、保護者・地域の方々に協力していただいた活動、保育園や中学校と連携した活動を展開することができたか。                            | ○学年ごとの校外・体験学習、高学年の交流作業、クラブや読み聞かせなど、地域の方々に協力していただき人材を活用して、今年度も充実した活動ができた。<br>○「南風っ子を育てる会」を設立し、南保育園と南小学校の地域連携組織を一体化でき、子どもを中心に据えた連携・協働に向けて歩み出すことができた。               | B<br>b | ○「南小応援隊」（支援ボランティア）の募集や教師側の活動計画（願い、内容、推進方法等）を充実させ、地域の人材リストの拡張・活用を行っていく。地域の方と学校とで「目指す子ども像」を擦り合わせる機会を気軽に設け、活動を共にしていきたい。<br>○教員の働き方改革の一助として、支援ボラさんへの協力をお願いしていきたい。                              |
|        |                | ○おたより・懇談会や参観日・地域との諸会合を通しての情報公開や学校理解 | ○学校だより、学級だよりなどの家庭通知により、学校の様子を積極的に知らせることができたか。<br>○学校公開・授業参観等を通じ、学習指導について保護者・地域の方々に理解してもらえたか。 | ○保護者には、学校公開日、保護者懇談会、各種講演会等に来校していただけた。アンケート結果「わかりやすい授業が行われている」はAB評価が90%、「がんばりを認めたり、励ましたりしている」はAB94%で、保護者から高い評価を得ることができた。<br>○地域、同窓会の方々には、作業やボランティア活動を通して理解を図れている。 | B<br>b | ○「地域と共にある学校」を目指し、「南風っ子」（学校だより）や学校行事、学校公開日などの「案内通知」を地域の回覧板や全戸に配付していきたい。<br>○学校全体や子どもたちの様子について、西春近南 CS 運営支援委員会や南風っ子を育てる会、同窓会の会議において報告するとともに、保護者や地域に発信していただけるように、学校だよりやホームページの内容について工夫を図っていく。 |
|        | 研修             | ○研究・研修の工夫・改善                        | ○自己課題に沿って日々の授業改善（ねらいの明確化・シートの使用等）に努めることができたか。<br>○研究会・研修会を通して専門性の向上や自己の修養に励むことができたか。         | ○自己課題及び校内研究、職員研修によって、専門性の向上を図ってきた。<br>○非違行為防止に関り、校長からの話や研修、講師を招聘しての講演を行うとともに、教務会において委員会を行うなど、根絶への取組を継続してきた。  | B<br>b | ○非違行為根絶のためさらに職員同士で声を掛け合ったり、研修会を持ったりする。<br>○地域に出て地元の方に学ぶ、児童理解・学級経営、人権教育、ICT、防犯・安全などに関わる職員研修を年間計画に位置づけ実施していく。  |